

# 連携医院のご紹介

今回は、広島市中区大手町にて、女性の診療を行っていただける女性クリニック ラポールの中原恭子先生です。



中原 恭子 院長

## 医療法人社団 女性クリニック ラポール

〒732-0051  
広島市中区大手町5丁目3-1  
電話/082-241-6009  
FAX/082-241-0506  
院長/中原 恭子  
診療科目/産婦人科・婦人科・  
乳腺治療



### ○いつ頃開業されましたか。

2008(平成20)年6月10日です。実は中学校2年生まで、ここ大手町で暮らしていました。話はさかのぼりますが、原爆投下当時は、祖父はここで盛業を営み、父は一中(現在の広島国泰寺高校)に通っていました。その父も他界しましたが、ここで事業を営んでいました。この地に帰れて嬉しいです。

### ○毎日の診療で大切にしていることは何ですか。

ラポール(rapport)はフランス語で「医者と患者の信頼関係」の意味です。当院のポリシーは『傾聴』『解決』『敬意』です。クリニックの名前にふさわしい診療を心がけています。

### ○開業医のやりがいについて教えてください。

昨今、勤務医の間では専門分化が進んだり、あるいは医師間のワークシェアリングが浸透してきていますが、一人の患者さんに責任をもって、一人の医師が診つけることが開業医の使命ですから、それこそがやりがいでしょう。

### ○県病院についてひと言お願いします。

産科・婦人科や乳腺外科の先生方とは顔の見えるお付き合いができています。今後も“見える可(化)”を是非ともお願いします。

「もみじ」に連載している副院長の板本先生のコラムは毎回拝読しています。お目にかかったことはないのに、お人柄が伝わってきます。これも“見える可”につながりますね。



女性クリニックラポール外観  
(クリニック受付は2F)

### 【取材後記】

日々女性の診療に取り組まれている中原先生。まさに地域の女性の健康の守り手としてご活躍されているという印象をお受けいたしました。先生、これからもよろしくお願いたします。

# もみじ

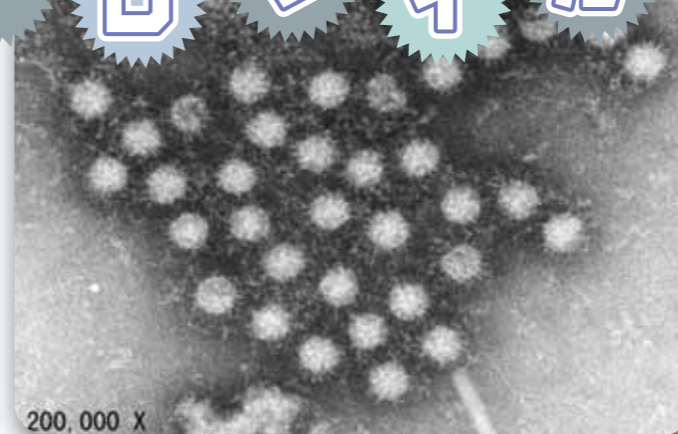


県立広島病院 〒734-8530 広島市南区宇品神田1丁目5番54号

※県立広島病院の様々な情報をホームページへ掲載しています。  
県立広島病院 で検索 (URL: <http://www.hph.pref.hiroshima.jp/>)

理念：県民の皆様に愛され信頼される病院をめざします

## ノロウイルス対策



現在、ノロウイルス腸炎が大流行しています。触れて感染するだけでなく、おう吐した時に発生する飛沫を吸い込んだり、便やおう吐物が環境に残っている場合に乾燥し浮遊したウイルスを吸い込むことによっても感染します。そこで、ノロウイルス腸炎が発生した場合の重要な対策を挙げてみました。

**1** 窓を開け換気し、マスクや手袋、エプロンを着用する



**4** 使用した布や紙類、手袋はビニール袋に入れ、消毒液Aをひたひたになるまで入れ、ビニール袋の口を硬く結び、更にビニール袋に入れて捨てる



**2** おう吐物、便汚染は消毒液A(下図参照)を染み込ませた使い捨て布や紙類で覆い、ビニール袋に入れる



**5** 最後は必ず、手を石鹸と流水で30秒以上洗い流す



**3** 手袋を交換し、消毒液B(下図参照)を浸した布または紙類で汚染部位の半径1m以上外側から内側に向かって消毒し2分放置した後、水拭きをする



### Point

おう吐物や便の処理後に限らず、調理をする前、トイレの後、外出後は、手をしっかり洗いましょう。

## 県立広島病院からのお知らせ

### 病院機能評価の認定(更新)を受けました!



平成25年12月に日本医療機能評価機構の行う第三者評価である『病院機能評価』の認定を受けました。今後も継続して、医療の質、患者サービスの向上に努めて参ります。

### 2月のがんサロン

**開催日** 平成26年 2月27日(木)  
**時間** 14:00~15:30  
**場所** 新東棟2階 総合研修室  
**内容** 学習会・交流会  
**対象** 悪性腫瘍(がん)で通院 または 入院されている患者さん 及び そのご家族  
**問合せ先** 地域連携センター 総合相談・がん相談室  
TEL:082-256-3562 (担当:佐々木)

**外来診療のご案内**  
**診療受付時間** 午前8時30分~午前11時00分  
※午後の診療は科によって異なります。

**休診日**  
土曜日・日曜日・祝祭日  
年末年始(12月29日~1月3日)

### 紹介状持参のお願い

初診時、他の医療機関からの紹介状をお持ちでない場合、保険診療費の他2,620円のお支払いが必要となります。初診の際には、紹介状をお持ち下さい。  
※当院では、予約診療を優先して診察しています。予約診療以外で受診されると待ち時間が長くなる場合がありますので、ご了承下さい。

## KBネット

現在の参加医療機関は  
**150** 機関です。  
(1月31日現在)  
**問合せ先** 地域連携センター  
電話(082)252-6228(直通)

家庭用塩素系漂白剤を使用した消毒液の作り方を紹介します!

### 消毒液 A

0.1%濃度

おう吐物、便などの直接付着したもの用

家庭用塩素系漂白剤 10mℓ  
(ペットボトルのキャップ2杯分)



水0.5ℓ  
(500mℓのペットボトル1本分)

### 消毒液 B

0.02%濃度

ドアノブや手すり等、感染者が直接触れたもの用

家庭用塩素系漂白剤 2.5mℓ  
(ペットボトルのキャップ半分)



水0.5ℓ  
(500mℓのペットボトル1本分)

※ノロウイルスに有効な次亜塩素酸ナトリウムは家庭用塩素系漂白剤(濃度約5%)に含まれています。

# 診療科だより

第26回

地域の先生と  
ともに頑張っ  
ています!

腎臓内科

今回は、腎臓内科の小川主任部長に直撃インタビューです!!

## ■はじめに腎臓内科について教えてください。

我国では1年に3万人を超える人が新たに透析<sup>とうせき</sup>を始めています。この数を減らすには早期に腎臓病を発見し対策を講じる必要があります。腎臓内科は平成20年に開設し、昨年度の外来は延べ6,835人、入院は383人でした。専門<sup>せんせん</sup>は腎炎<sup>じんえん</sup>と腎不全<sup>じんふぜん</sup>（透析）です。



透析室

## ■腎臓内科では、どのような診療がどんなスタッフによって行われていますか?

当院は学会（腎臓学会、透析医学会）の認定施設です。臨床経験15年以上の専門医を筆頭に総勢5名で皆様の診療を担当します。自覚症状の無いたんぱく尿、血尿から腎炎、ネフローゼ<sup>1)</sup>、透析まで急性・慢性疾患に幅広く対応し、腎生検<sup>じんせいけん</sup>による腎炎の診断と治療、腎不全の管理、透析、そして腎移植へと治療のたすきを繋ぎます。

西5階



教育入院チーム

## ■最後に、腎臓内科としてここがけていることを教えてください。

急速な高齢化を反映して糖尿病や高血圧から腎臓を悪くする方も多く、受診が望ましい腎臓病患者は全国に数百万人かもしれません。一方で、一般の方にはとてもイメージしにくい病気です。そのため健診等で異常を指摘されても放置してしまいがちです。残念なことに当院でも毎年80人近い方が新たに透析を導入しています。この数を減らすためスタッフ一同、地域の先生とともに頑張っています。

## 地域の先生とともにあなたをサポート

6日間の腎臓病教育入院は、医師、看護師、薬剤師そして管理栄養士が協力して生活習慣の改善を応援することも目的の一つです。また、KB ネット<sup>2)</sup>により入院中の治療経過を見て頂くことで、「治療の輪」を地域の先生にひろげることができます。「腎臓病はよく分からないし…自分一人で治療に取り組むのは荷が重いな…」という方をサポートの輪で包み込めたらと考えています。



- 1) ネフローゼ：尿の中に多量の蛋白が漏れてしまい、身体にむくみを生じさせる病態
- 2) 腎生検：細い針で腎臓の1部を採取する検査、診断と病気の程度の判定のために行う
- 3) KBネット：紹介頂いた患者さんが同意された場合に、地域の先生が自らの診療所から居ながらにして当院のカルテを参照できる電子システム

# 外科医の独り言 no.29

## — ボランティア —

年末大雪の中、89歳の母親が一人で住んでいる実家に帰ってきました。帰省の主な目的は実家から歩いて数分の病院でボランティア当直をするためでした。遡ること1年前、この病院の事務長さんとお話しする機会があり、御多分に漏れず医師不足で、医師の負担も大きく大変だとのことでした。私の父親の最期をこの病院で看取ってもらい、その時何のお礼もできなかったこと、実家に帰ってもどうせすることも無いのだからと24時間当直を気軽に引き受けました、もちろんボランティアで。ただ、役に立つかどうか不安でしたが…実は隣町に総合病院があり、そこに後輩の外科医Y先生がいることを知っていたので、あらかじめ彼に「何かあったら頼むぞ」と電話で頼んでおきました。彼にとってはまた迷惑な“命令”だったかもしれません。

日中は、数名の軽症患者さんが来院されただけで、夜間も平穏に過ぎようとしていた午前5時、80歳代の女性が腹痛で来られました。午前3時に腹痛で目が覚め、民生委員さんをお願いして車で連れてきてもらったとのこと。ここ数日便が出ておらず下腹部が痛いらしく、お腹を押さえるとちょっと顔をしかめつつ「大丈夫です」と。「えっ?痛くないの?」、「押さえられたら少し痛いけど大丈夫です」。確かに腹膜炎の所見ではなさそうなので便秘?そうこうしていると「薬になりました」と。「あれ?薬になったの?まだ何もしていないよ」じゃあ、あまり大したことはないのかなあ。CTを撮るにしても待機の放射線技師さんと呼ばなければならぬし、外はまだ暗く雪がじゃんじゃん降っていました。ただ顔色の悪いことが気になりまし

たが…とりあえず入院して痛み止めの点滴をして明るくなるのを待ってからCTと血液検査をすることにしました。

点滴を始めて1時間後病室の様子を見に行くと、右を下にして横になっていましたが、私の顔を見ると「痛みはとれて随分楽になりました」と、お腹を触ってもやはり腹膜炎の所見はなかったのですが、依然顔色が悪く、冷汗もかいていました。これは絶対におかしいと確信し、CTも撮らずにすぐに「待機している」後輩Y先生に電話し、救急車で隣の総合病院に搬送してもらいました。救急隊が到着した時も「歩けます」と言って起き上がり、救急隊員も軽症と判断し?歩かそうとしたので「ただごとじゃないよ、これは」と言って思わず制止したほどです。

日当直を無事終え実家に帰ると、母親が「少しは役に立ったのかい?」と聞くので「まあ、邪魔にはならなかったらうね」と返事しておきました。そのあとY先生から電話があり、Y先生も最初は軽症とと思ったらしいのですが、CTを撮ったら胃潰瘍の穿孔で腹膜炎と判明、今からすぐに手術するとの事。「なに?手術?俺行って手伝おうか?」とボランティア手術を申し出ましたが、外科医は足りているとの事でした。

母親に話すと「あまり役に立たなかったね」と慰められる始末。それにしてもこの患者さんの我慢強いこと、もう少しで見逃すところでした。



副院長(消化器・乳腸・移植外科主任部長)板本敏行(いたもと としゆき)

## 泉病の星 感染管理認定看護師

長期間の静脈栄養や、長期間の抗がん剤治療、そして緩和医療を行う患者さんに対して、C Vポートが多く使用されるようになりました。C Vポートは従来のカテーテルに比べ、生活にほとんど影響がなく、カテーテル関連血流感染症のリスクが低いのが利点です。しかし、不適切な管理によって感染することもあり、原因菌としてはMRSAやカンジダ属(カビ菌)が多く、場合によっては眼内炎による失明など合併症を伴う事もあります。感染防止には家庭での管理が大切です。C Vポートを挿入する際には、管理方法について患者さんやご家族に説明させていただいてますが、解らないことがあれば、いつでもご相談ください。



(図)化学療法サポートHPより



今崎



亀井

## クリスマスコンサート

昨年の12月25日(水)午後2時30分から中央棟1階の正面玄関ロビーにおいて、恒例の『クリスマスコンサート』を開催いたしました。プロメテウスアンサンブルの皆様による演奏は、会場に集まっていた患者さんや、ご家族に大変喜んで頂きました。病室では、院内テレビを通じて配信し、会場に来られない患者さんにも雰囲気味わっていただきました。



会場にプロメテウスアンサンブルの演奏が響きます